2020 年度

地理科学学会 秋季学術大会

一般研究発表　要旨集

日時：2020 年 11 月 29 日（日）10:30～15:30

会場：広島大学教育学部 K201（東広島市鏡山 1－1－1）

❖プログラム❖

■口頭発表

10:30-10:50　熊原　康博（広島大）・岩佐　佳哉（広島大・院；学振 DC）・村田　翔（尾道中・高）・後藤　秀昭（広島大）・竹内　峻（広島大・院）・石原悠一郎（広島大）・清田　美紀（東広島市教育委員会）・長野　由知（東広島市教育委員会）・東広島市危機管理課：地域の自然災害を主題とした防災教育教材の開発―西日本豪雨を踏まえた東広島市と広島大学との共同研究―

10:55-11:15　阪上　弘彬（兵庫教育大）：中等社会系教科における防災教育―3.11 後の研究を対象にしたシステマティックレビュー―

11:20-11:40　香川　雄一(滋賀県立大)・鈴木　繁信(（株）三恵工業)：大阪市西区を対象とした巨大地震による津波の発生に対する避難経路の分析

昼休憩（11:40-13:00）

*午前中の発表で不具合が生じた場合は，11:40-12:00 の間に発表を改めて行います。

13:00-13:20　勝又悠太朗（広島大）・Thakur Gajender（広島大・院）・月森　義基（広島大・学）：インドにおける新型コロナウイルス（COVID-19）感染の州別にみた特徴とその背景―感染者データと報道資料を用いた考察―

13:25-13:45　横川　知司（広島大・院）・岩佐　佳哉（広島大・院；学振 DC）・原田　歩（広島大・院）・佐藤　大規（広島大）・熊原　康博（広島大）：都市化が進む農村地域における伝統行事「とんど」の維持と課題―東広島市西条町を事例に―

13:50-14:10　淺野　敏久（広島大）：東広島市におけるエコミュージアム見学ツアーの試みと需要

休憩（14:10-14:20）

14:20-14:40　和田　崇（県立広島大）：過疎地域における高校運動部の位置づけと課題－宮崎県高千穂町の事例－

14:45-15:05　富川久美子（広島修道大）：大久野島における観光対象の変遷

15:10-15:30　原田　歩（広島大・院）：近世城下町における寺院立地の変遷に関する研究―広島・熊本両城下町を事例に―

*午後の発表で不具合が生じた場合は，15:30 以降に改めて行います。

◆口頭発表

地域の自然災害を主題とした防災教育教材の開発
—西日本豪雨を踏まえた東広島市と広島大学との共同研究—

熊原 康博*（広島大）・岩佐 佳哉（広島大・院；学振 DC）・
村田 翔（尾道中・高）・後藤 秀昭（広島大）・竹内 峻（広島大・院）・
石原悠一郎（広島大）・清田 美紀（東広島市教育委員会）・
長野 由知（東広島市教育委員会）・東広島市危機管理課

『学校防災のための参考資料』（文部科学省，2013）では，小学校段階での防災教育の目標は「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し，安全な行動をとるための判断に生かすことができる」(p.16) としている。本報告では，この目標をふまえ，東広島市と広島大学の共同研究に基づく防災教育教材の開発について報告し，防災教育やその方法のあり方や方向性について議論したい。

開発した教材の主なテーマは，東広島市内の自然災害として最も危険性の高い土石流災害とした。平成 30 年 7 月西日本豪雨でも数多くの土石流が発生し，甚大な被害が生じている。開発した教材は，1）15 分間の動画，2）教員向けの授業の進め方の手引き，3）授業で使用するワークシート，4）校区別の被災写真・土石流分布図からなる。動画の前半では，生活と水との関わり，水害碑をもとにした災害の歴史，土石流の一般的な特徴，ハザードマップについて解説し，後半では国・県・市の公助，共助の例として住民自治組織の活動を取り上げた。上記の 1～4 を DVD に入れ，市内の小・中学校に配布した。

中等社会系教科における防災教育—3.11 後の研究を対象にしたシステマティックレビュー—

阪上 弘彬（兵庫教育大）

3.11 後、中等社会系教科では数多くの防災学習の提案・実践が蓄積されてきた。一方で、提案・実践される授業や学習のあり方は一様ではない。3.11 後の中等社会系教科の防災学習の傾向を明らかにし、展望を示すことを目的に、以下の問いのもと実施した：①3.11 後に出版された学術雑誌において、中等社会系教科を対象とした防災学習のあり方に対してどのような提案がされてきたのか、②防災学習のさらなる推進に向けて何が必要となるのか。システマティックレビューの手法を用い、54 本を検討した。結果として、フィールドワーク、自然災害と社会との関係、現実社会における論争問題などが重視されるテーマであった。また学習の目的として個人の意識を高める側と社会のあり方を考える側に分かれ、その際の手段も災害に関わる認識を高める立場と意思決定などの資質・能力の形成で達成しようとする立場で分かれた。推進にあたっては、教師が防災学習を実践きるような力量を形成する養成・研修過程での取組等が必要である。

大阪市西区を対象とした巨大地震による津波の発生に対する避難経路の分析

香川　雄一*（滋賀県立大）・鈴木　繁信（三恵工業株式会社）

東日本大震災を経験し，津波の発生による大規模な被害を全国的に認識するようになった現在，南海トラフ巨大地震に備えて行政による防災計画や地域住民による自助・共助といった取組が必要とされている。津波防災において，ハザードマップを活用することとともに，避難場所を知っておくことも課題となる。避難施設は整備されつつあるが，避難経路は指定されていない場合が多い。本研究では，大阪市西区を対象として，南海トラフ巨大地震を想定した防災計画や防災活動を把握した上で，GIS を用いた空間解析による避難経路の提案を目的とする。研究方法として，地域的特徴を確認した上で，避難施設の分布を明らかにした。さらに，災害弱者の存在が想定される社会福祉施設から避難施設への距離や避難者の歩行速度によって目的避難場所を設定した上で，ArcGIS Online を使用して避難経路を選定した。その結果，津波災害時における避難行動の課題を抽出できた。

インドにおける新型コロナウイルス（COVID-19）感染の州別にみた特徴とその背景
―感染者データと報道資料を用いた考察―

勝又悠太朗*（広島大）・ Thakur Gajender（広島大・院）・
月森　義基（広島大・学）

本報告は，インドにおける新型コロナウイルス（COVID-19）感染の州別にみた動向を時系列的に明らかにすることを目的とする。加えて，現地の報道資料を参照し，その要因の検討を試みる。州別のCOVID-19の感染者数データは，covid19india.orgが州や公的機関などの情報を収集・整理し，ウェブサイトで公表しているものを使用する。その上で，GISを用いて主題図を作成し，感染動向の地域的傾向を読み取る。州別の感染動向を確認すると，当初はマハーラーシュトラ，グジャラート，デリー，タミル・ナードゥの4州に感染者が集中する傾向にあった。また，タミル・ナードゥを除くと，インド東部と南部の諸州の感染者数は少なった。しかし，その後はカルナータカやアーンドラ・プラデーシュでも感染者数が大きく増加するなど，感染の地域的特徴に変化が見出せる。発表当日は，こうした感染動向の背景にある諸要因について報道資料を手がかりに示していく。

都市化が進む農村地域における伝統行事「とんど」の維持と課題—東広島市西条町を事例に—

横川　知司*（広島大・院）・岩佐　佳哉（広島大・院；学振 DC）・
原田　歩（広島大・院）・佐藤　大規（広島大）・熊原　康博（広島大）

本研究では,地域の違いや変容が伝統行事の運営にどのような影響があるのかを明らかにするために，東広島市旧西条町（以下西条町）における新年の伝統行事「とんど」を対象に,2019 年と 2020 年に悉皆調査を行い,その実態を明らかにした.西条町は,都市地域と農業地域の両方を含み,近年の人口増加に伴い農業地域の一部が都市化・宅地化しつつある.「とんど」の運営は,この地理的条件が影響していることを示す.調査の結果,西条町では 104 ヶ所で「とんど」が行われており,農業地域では集落単位で行われ,都市地域では小学校で行われていることが明らかになった.「とんど」を維持するために,「とんど」本体の形状を変化させている事例も確認された.「とんど」の維持の課題としては，農業地域では高齢化や住民の減少，都市地域では設置場所の欠如,素材の確保困難，都市化が進行する地域では，都市地域の課題に加え煤煙に対する苦情対応などが挙げられた.

東広島市におけるエコミュージアム見学ツアーの試みと需要

淺野　敏久（広島大）

エコミュージアムでは，地域に散在する遺産をどう結びつけるのかがひとつの課題である。そのために域内をめぐる見学ツアーを提供することが考えられる。本稿の目的は，東広島市で想定したエコミュージアム・ツアーにどの程度の需要が見込めるのかを明らかにすることである。そのために，広島県民を対象としたウェブアンケート調査と，広島大学学生の意見調査を行った。ウェブアンケートからは，エコミュージアムに関心をもつ層が 3 分の 1 おり，ツアーへの参加希望は,「水と酒」をテーマとするものが 56.0%,「生物と農村生活」で 44.9%,「バイオマス関連」で 40.3%,「伝説と歴史」で 30.3%であることが示された。また，学生の意見としては，大学のある地域について知る機会を大事にしたい，日常的に自然に接する機会が少ないので提示された機会は貴重だと考えるものがいる一方，参加費用面でそもそも無理だと判断するものがいる。両者はほぼ半々となった。見学ツアーに対して，博物館単独での実施能力を大きく上回る潜在的な需要があることが確認できた。

過疎地域における高校運動部の位置づけと課題

ー宮崎県高千穂町の事例ー

和田　崇（県立広島大）

宮崎県北部の山間地域に立地する宮崎県立高千穂高校は 1990 年代以降に生徒数が大幅に減少し，学校の魅力づくりと入学者確保が喫緊の課題となっている。こうした中で，近年取り組むようになった地域連携型教育活動とともに同校の特色・魅力となっているのが複数回の全国優勝経験をもつ剣道部である。同校剣道部員は，保護者会や OB・OG 会，県教育委員会などの組織的支援のほか，町民有志や町内関係機関による支援や応援を受けながら，そのことを理解し，感謝し，それに応える立場にあることを諭す顧問教諭の指導の下，練習をはじめ日々の学校生活に取り組んでいる。剣道部の活動・活躍は，町外さらに県外からも入部を希望する入学者を増加させ，剣道部員は全生徒数の一定割合を占めるなど，同校の存続・活性化にも貢献している。また，その活動・活躍は地域の誇りとなり，町民からは剣道競技がわがまちのスポーツとして認識されている。

大久野島における観光対象の変遷

富川久美子（広島修道大）

島嶼観光に関する研究は、地域の変容が論じられてきたが、本研究では大久野島における観光対象の変遷とその背景を明らかにした。島の観光の始まりは 1963 年の宿泊施設の開業による。これ以降の観光開発により年間数十万人におよぶ行楽客が訪れるようになった。その後、1988 年に「毒ガス資料館」が開館すると、これを機に毒ガスの島として平和学習を目的とした修学旅行生などが増えた。そして、野生のウサギも島の主要な観光対象となっていった。これは、2011 年の兎年の前年以降、マスコミ報道が増えたことによる。また、2012 年にアメリカ人による SNS 発信に始まり、2014 年の香港からの観光者による YouTube 発信など、情報発信が盛んに行われるようになったことが国内外からの観光者急増に繋がった。このように、大久野島はレジャーの島、毒ガスの島、ウサギの島へと主要な観光対象の変遷にともなって、観光形態も多様化していった。

近世城下町における寺院立地の変遷に関する研究
ー広島・熊本両城下町を事例にー

原田　歩（広島大）

近世城下町の構成要素である「侍町・町家・寺院地」のうち「侍町・町家」は、城下町の発達と経済的要因や城郭の防備などの観点から、その配置の変化が検討されている。しかし、「寺院地」については、寺院集積地が城下町における防御の役割を担っていたことに触れられる程度である。城下町には寺院集積地に属さない寺院も多く、それらの寺院の分布に関する研究は未だなされていない。

本報告では，外様大名が築城し、所領の規模が近い広島城下町と熊本城下町をフィールドに近世城下町の整備の過程と寺院分布の変化の類似性や差異について報告し、近世城下町において城主が寺院地をどのように捉えていたのか議論したい。

各藩主の治世下ごとに寺院の分布をまとめ、その時代の寺院分布の特徴や前の時代からの変化の特徴を明らかにする。また、それらの特徴を同時期に築城が始まり、大名としての性格が似ている藩主が築城した広島城下町と熊本城下町を比較する。

地理科学学会

2020 年度地理科学学会秋季学術大会一般研究発表要旨集

〔編集・発行〕地理科学学会　集会専門委員会

〒739 - 8522　東広島市鏡山 1 - 2 - 3

広島大学大学院文学研究科地理学教室内

TEL : 082 - 424 - 6656　FAX : 082 - 424 - 0320

http://www.chiri-kagaku.jp/